



2006 年度下期未踏ソフトウェア創造事業 採択案件評価書

1. 担当PM

大川 恵子 PM (株式会社スクールオンインターネット研究所 代表取締役所長)

2. 採択者氏名

開発代表者: 吉井 英樹 (日本テレコム株式会社研究所 アシスタントマネージャ)
共同開発者: なし

3. プロジェクト管理組織

テクノロジーシードインキュベーション株式会社

4. 委託金支払額

8,742,236 円

5. テーマ名

統計データを通して、地域を知り、日本を知り、世界を知る

6. 関連Webサイト

なし

7. テーマ概要

社会や経済のグローバル化、少子高齢化の進展、地球温暖化など社会をとりまく環境が大きく変化する中、個々の世帯や企業が的確な意思決定を行っていく上で、統計は重要性を増している。また、統計データを通して、地域を知り、日本を知り、世界を知るということは知的好奇心をくすぐるものである。

この統計データに関して、日本では、統計局において、統計データを国民の共有財産と位置づけ、迅速かつ継続的に提供することで、その利活用を推進している。諸外国、及び国連においても、同様の活動を行っている。しかし、一般のユーザがこれら統計データを目にする機会は、中学/高校の地図帳を開く以外は、マスメディアから提供されるものがほとんどであり、自ら統計データにアクセスすることはほとんどない。また、統計データを単に Excel ファイルや csv ファイルとして公開しただけでは、Web2.0 にみられる Mashup サイトのリソースとして活用することはできない。

そこで、本プロジェクトでは、これら統計データに容易に、楽しくアクセスし、活用できる仕組みを提供することで、統計データを介して世の中を覗いてみる機会を増やす一助となるシステムを Internet 上に構築する。

将来的には、世界中の統計データを収集し、Web サービスとして公開することで、世界の情報産業の発展に貢献したい。

8. 採択理由

多くの統計データをより利用しやすく変換し公開し、自律的に成長できるような仕組みを作れることを期待します。

9. 開発目標

世界が大きく変動する中、個人や企業における統計の重要性は増している中、日本では、統計局において統計データの迅速かつ継続的な提供が行なわれているが、Internet 上での利活用が十分に進んでいるとは言い難い。本プロジェクトでは、これら統計データに容易に、楽しくアクセスし、活用できる仕組みを提供することで、利用者の知的好奇心を刺激し、社会に目を向ける端緒を開くシステムの構築を目的とした。

10. 進捗概要

- 11月 開発開始
- 1月 プロジェクトの全体設計
- 2月 開発環境の整備
- 3月 全体設計、開発環境構築の完了
- 4月 統計データと地図サービスの Mashup サイトの部品作成

- 5月 公開用 Web サービス準備完了・中間発表会
- 6月 Web ページ公開開始
- 7月 統計データベースの作成完了
インテリジェント機能の追加
- 8月 最終報告会・成果報告書作成

11. 成果

本プロジェクトの成果は、以下のとおりである。

1. 統計データの Web 上での利活用を促進するシステムの構築・公開
統計データを Mashup リソースとして、様々なサイトが利用可能となるような Web サービス API として公開したこと
2. インテリジェント機能の追加
外部のアプリケーションが統計データを利用するための様々な機能(ランキング、グループ化、グラフィメージ、地図、検索)を提供したこと

12. プロジェクト評価

本プロジェクトは、当初の目的である統計データを使った学びの楽しさを非常に上手く実現している点で、「ソフトウェアがもたらす学びへの貢献」が高く評価できる。公開中のサイトは実際の教育現場でも十分活用可能なクオリティであり、その完成度及び実用性が評価できる。今後、さらに改善・普及を進めることにより、様々な WEB サービスが本プロジェクトの統計データを活用し、統計データを介して社会を知るといった学びが広く実現されることが期待できる。

13. 今後の課題

今後の課題で最も重要な点は自律的なデータ収集/アップデートの仕組みを構築することである。統計データは形式が統一されていないため困難も多いと予想するが、データの多さが本システムの鍵となることから、ぜひ自律性を確保するための工夫を続けてほしい。また、実用化への取り組みとして、公開用サイトのユーザビリティの向上及び既存サービスとの提携を進めていくことを期待する。